

施策評価（令和8年度）

戦略2 農林水産戦略			
目指す姿2 林業・木材産業の成長産業化			
幹事部局名	農林水産部	担当課名	林業木材産業課
評価者	農林水産部長	評価確定日	令和8年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

“伐って・使って・植える”という森林資源の循環利用により、林業・木材産業の成長産業化と森林の多面的機能の持続的な発揮の両立を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 新規林業就業者数(人)	目標			134	134	134	134	110.4%	4	
		実績	146	122	135	149	152	148			
	出典: 県調べ	達成率			100.7%	111.2%	113.4%	110.4%			
②	【施策の方向性②】 再造林面積(ha)	目標			556	604	675	750	100.1%	4	
		実績	338	332	561	610	735	751			
	出典: 県調べ	達成率			100.9%	101.0%	108.9%	100.1%			
③	【施策の方向性③】 素材生産量(燃料用を含む)(千 m)	目標			1,710	1,750	1,870	1,900	87.5%	2	
		実績	1,583	1,425	1,571	1,443	1,465	1,662			
	出典: 県調べ	達成率			91.9%	82.5%	78.3%	87.5%			
④	【施策の方向性③】 スギ製品の出荷量(千m)	目標			712	731	742	752	84.8%	2	
		実績	634	530	524	403	504	638			
	出典: 県調べ	達成率			73.6%	55.1%	67.9%	84.8%			
⑤	【施策の方向性④】 森づくり活動等への参加者数 (人)	目標			24,000	24,000	24,000	24,000	98.2%	3	
		実績	23,362	12,758	21,552	25,940	28,190	23,565			
	出典: 県調べ	達成率			89.8%	108.1%	117.5%	98.2%			

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq$ 100% 3点: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 2点: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%
 1点: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.00 (c相当)	4点 × 2個 = 8点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 1個 = 3点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 2個 = 4点
	合計 15点 ÷ 5個(判明済み指標) = 3.00

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
 d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 次代を担う人材の確保・育成】

- ・秋田林業大学校における人材育成のほか、就業希望者や高校生に対する林業体験研修の実施等により、新規就業者数は148人と高い数値で推移している。
- ・林業経営体と県で構成する秋田県林業女性会議の提案等を受け、CM動画を制作・放映するなど林業の認知度向上に係る取組を支援し、女性や若者の就業促進対策や多様な担い手確保に向けた働きやすい就労環境の整備を推進した。

【施策の方向性② 再造林の促進】

- ・「あきた造林マイスター」をこれまでに97人認定・育成し、森林所有者へ再造林の働きかけを行うとともに、県及び業界団体による造林地集積への支援により、再造林面積は735ha（令和6年度）から751ha（令和7年度）へと16ha増加している。

【施策の方向性③ 木材の生産・流通体制の整備と利用の促進】

- ・林業関係団体や木材加工企業等で構成する秋田県原木需給会議を設置して、木材の需給情報を共有するとともに、路網整備と高性能林業機械の導入や木材加工流通施設の整備への支援により、原木や木材製品の供給力の向上を図ったことで、令和7年度は木材需要が高まり、素材生産量は1,662千m³と前年度に比べ13%増加した。
- ・SNSや木材製品の首都圏展示会等を活用して県産材の情報発信を行うとともに、県内工務店15グループや県外あきた材パートナー34社と製材工場等とのマッチングを支援したほか、住宅以外の建築物の木造・木質化に取り組む建築人材の育成等により、県産材の利用を促進した結果、令和7年度のスギ製品出荷量は638千m³と27%増加した。

【施策の方向性④ 森林の有する多面的機能の発揮の促進】

- ・森林ボランティア団体等による森林整備活動を62件、小・中学校等による森林環境学習を69件実施したほか、市町村等による森林病虫害対策を実施した。これにより、第4期5箇年計画に掲げる「県民参加の森づくり（年60件）」及び「森林環境学習（年50件）」の各目標を達成することができた。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
C	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.00で「c相当」であることから、総合評価は「c」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文		「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用が進み、林業・木材産業が発展している。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	満足度					
	肯定的意見	15.8%	13.6%	12.7%		
	十分 (5点)	1.4%	1.6%	1.5%		
	おおむね十分 (4点)	14.4%	12.0%	11.2%		
	ふつう (3点)	42.7%	35.3%	35.5%		
	否定的意見	22.6%	30.2%	31.5%		
	やや不十分 (2点)	14.1%	18.2%	21.2%		
	不十分 (1点)	8.5%	12.0%	10.3%		
	わからない・無回答	18.8%	20.7%	20.3%		
平均点		2.83	2.66	2.65		

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

※2026(R8)年度は2025(R7)年度以前と質問内容が異なるため、結果は記載していない。

参考:2026(R8)年度県民意識調査の結果

質問文		森林資源の循環利用が進み、林業・木材産業が発展している				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	満足度					
	5点				2.0%	
	4点				9.5%	
	3点				30.3%	
	2点				22.8%	
	1点				10.9%	
	わからない・無回答				24.4%	
	平均点				2.59	

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

※2026(R8)年度は2025(R7)年度以前と質問内容が異なるため、2025(R7)年度以前の結果は記載していない。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 新規就業者数は目標値を達成しているものの、就労環境の整備が途上であり、就業者が定着しづらい。また、県外や異業種からの新規参入も進んでいない状況にある。	○ 引き続き、多様な働き方の実現や就労環境の改善に取り組む林業経営体を支援するとともに、Aターン雇用を促進する支援や新規参入しやすい環境整備などを実施する。
②	○ 将来にわたり森林資源を循環利用していくため、計画的に全ての造林適地で再造林を行うことを目標としているが、伐採者と造林者の連携が希薄であるため、造林者が伐採情報を得にくい。	○ 伐採者と造林者が連携する「造林地集積ネットワーク」を構築し、伐採情報の共有化や労務協力等を進め、伐採時から森林所有者に再造林の働きかけを行い、造林地集積を促進する。
③	○ 人口減少や建築資材の高騰により、新設住宅着工数が減少し、木材需要が低迷している。	○ 県内外の住宅においては輸入材や他県産材から県産材への転換を進めるほか、非住宅建築物での県産材利用や海外輸出の展開などにより新たな需要を開拓する。
④	○ 近年のクマ出没等の影響により、森林内での環境学習等の屋外活動が制限されるケースが増加している。	○ 屋外活動が困難な場合に備え、屋内活動へスムーズに移行できるよう、振興局を通じて各団体へ屋内活動への変更事例を事前に紹介する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「c」をもって妥当とする。